

欧州環境インサイト ニュースメール

EBSニュースメール2011年7月号

「欧州環境インサイト」ニュースメール2011年7月号をお送り申し上げます。皆様のビジネスにとって何らかのお役に立てれば幸いです。

----- ヘッドライン -----

- [【太陽光:ドイツ】独ボッシュ、マレーシアに太陽電池生産拠点を新設](#)
- [【太陽熱:EU】2010年の太陽熱市場、2年連続で成長減速](#)
- [【太陽光:イタリア】三洋電機、欧州最大級の太陽光発電所がイタリアに完成](#)
- [【風力:ドイツ】シーメンス、洋上風力発電タービンを相次ぎ受注](#)
- [【風力:フランス】アレバとイベルドローラ、仏洋上風力発電プロジェクトに応札へ](#)
- [【波力:スペイン】欧州大陸初の波力発電施設、スペインで操業開始](#)
- [【低排出車:スイス】ABB、オランダのEV 充電装置メーカーを買収](#)
- [【バイオ燃料:オランダ】KLMやルフトハンザ、バイオ燃料を旅客機に本格導入](#)
- [【CCS:ブルガリア】東芝、ブルガリアでCCS導入に向けた調査実施](#)
- [【政策:EU】欧州委、欧州エネルギー効率化基金を創設](#)

--- ニュース -----

【太陽光:ドイツ】独ボッシュ、マレーシアに太陽電池生産拠点を新設

自動車部品や産業機器を手がけるボッシュは6月22日、5億2,000万ユーロを投じて、マレーシア北西ペナン州に太陽電池モジュールの生産拠点を設置する計画を明らかにした。単結晶シリコンのインゴットから太陽電池モジュールまでの全工程をカバーする大型工場の設立で、年間30%の急成長が見込まれるアジア市場に攻勢をかける。年内に着工し、生産開始は2013年末を予定している。ボッシュは太陽光事業を国際化する方針を打ち出しており、今年5月にもフランスのリヨン郊外Vénissieuxに太陽電池モジュール工場を建設する計画を発表している。南欧向け製品を製造する同工場は、来年1月の生産開始を見込んでいる。

ニュースリリース

http://www.bosch-presse.de/presseforum/details.htm?txtID=5224&tk_id=107

[http://www.bosch-solarenergy.com/media-service/press-releases/press-release/news/1304408849/?tx_ttnews\[pointer\]=1&tx_ttnews\[backPid\]=35&cHash=76f2c45c0a4ae93b24448152e3ea8542](http://www.bosch-solarenergy.com/media-service/press-releases/press-release/news/1304408849/?tx_ttnews[pointer]=1&tx_ttnews[backPid]=35&cHash=76f2c45c0a4ae93b24448152e3ea8542)

【太陽熱:EU】2010年の太陽熱市場、2年連続で成長減速

欧州連合(EU)加盟国の再生可能エネルギーの導入状況を調査するEurObserv'ERは6月24日、太陽熱を温水や暖房に利用する太陽熱市場に関する年次報告書で、域内における2010年の太陽熱市場の成長が2年連続で減速したことを明らかにした。2010年の集熱パネルの新設面積は380万平方メートルで、2009年実績を40万平方メートル下回った。これは、熱入力で約2.6GWに相当する。ただし、スペインを除く加盟国では回復基調に入っている。一方、集光型太陽熱発電(CSP)では、2010年の設置容量は638MWで、このほとんど

がスペインにおける設置だった。太陽熱産業協会 (ESTIF) による試算によると、太陽熱が EU の最終エネルギー消費に占める割合は1.2%で、2020年までに冷暖房需要の5.47% を賅うことができるとしている。

ニュースリリース:

http://www.eurobserv-er.org/pdf/solar_thermal_barometer_2011.pdf

【太陽光: イタリア】三洋電機、欧州最大級の太陽光発電所がイタリアに完成

三洋電機は7月1日、同社の太陽電池を使った7.6MWの太陽光発電所が、イタリア南東部のプーリア州プリンディジ県に完成したと発表した。ドイツ銀行の資産運用部門が主導するコンソーシアムが手がけたプロジェクトで、太陽光を追尾する駆動式架台(トラッキング)システムを採用した太陽光発電所としては、欧州最大規模となる。使われた太陽電池モジュールは、3万2,202枚。HITと呼ばれる独自技術を使った太陽電池は設置面積あたりの発電量が多いことが特長で、これまで小・中規模のシステムを中心に使われてきたが、今回、初めて大規模システムに採用された。

ニュースリリース:

<http://panasonic.co.jp/sanyo/news/2011/07/01-1.html>

【風力: ドイツ】シーメンス、洋上風力発電タービンを相次ぎ受注

独総合電機大手シーメンスは6月27日、スペインのエネルギー大手、イベルドロウラの英国子会社であるスコティッシュ・パワーとデンマークのDONGのコンソーシアムがアイリッシュ海に設置する総設備容量380MWの洋上風力発電施設向けに、定格出力3.6MWのタービン108基を供給することを明らかにした。同施設は、洋上風力発電としては世界最大級で、2014年の稼働後は、英国内30万世帯に電力供給が可能となる。なお、シーメンスは6月22日、DONGが手がけるデンマーク最大の洋上風力発電施設にも同規格のタービン111基を供給することを発表したばかり。また、6月21日にも中国江蘇省の洋上風力発電施設に定格出力2.3MWのタービン21基の供給を決めるなど、海外の洋上風力発電施設からの受注が相次いでいる。

ニュースリリース:

http://www.siemens.co.uk/en/news_press/index/siemens-secures-new-389mw-wind-turbine-ordersiemens-secures-new-389mw-wind-turbine-order-in-the-uk.htm
http://www.siemens.com/press/en/pressrelease/?press=/en/pressrelease/2010/renewable_energy/ere201006091.htm
http://w1.siemens.com.cn/news_en/news_articles_en/1836.aspx

【風力: フランス】アレバとイベルドロウラ、仏洋上風力発電プロジェクトに応札へ

フランスの国営原子力企業アレバは6月29日、スペインのイベルドロウラの再生可能エネルギー子会社イベルドロウラ・レノバブレスと共同で、フランス沿岸の洋上風力発電プロジェクトの入札に参加することで合意したと発表した。仏政府は2020年までに総容量6GWの洋上風力発電施設を建設する方針を打ち出しており、第一段階として総容量3GWの洋上風力発電海域5カ所に関する入札を7月11日に開始した。両社はこの内、2カ所の入札に参加する計画で、落札した場合、合計容量1~1.5GWの発電施設の建設と運営をイベルドロウラ・レノバブレが担当し、風力タービンをアレバが供給する。アレバは5月に、仏エネルギー大手GDFスエズ及び仏建設Vinciと共同で、5カ所のうち3カ所の応札も決めている。落札企業は来年4月までに決まる予定。

ニュースリリース:

<http://www.aveva.com/EN/news-8948/iberdrola-renewables-and-aveva-form-strategic-partnership-to-bid-for-french-offshore-wind-projects.html>
<http://www.aveva.com/EN/news-8899/gdf-suez-vinci-and-aveva-join-forces-to-develop-france-s-offshore-wind-industry.html>

【波力: スペイン】欧州大陸初の波力発電施設、スペインで操業開始

スペイン・バスク自治州政府のエネルギー機関EVEは7月7日、バスク地方沿岸のMutriku港に設置した波力発電施設の操業を開始したことを明らかにした。EVEが230

万ユーロを投じた同施設は、独機械大手フォイトとシーメンスの合弁会社Foith Hydroの英国子会社Wavegenが開発した振動水柱型(OWC: Oscillating Water Column)の波力発電タービン16基を設置しており、総容量296kW、年間発電量60万kWhが見込まれている。波力発電施設の商業運転は欧州大陸では初めてという。同施設により削減できる二酸化炭素(CO2)は年間600トンに上るとしている。なお、Foith Hydroによると、全世界の潜在的な海洋エネルギー発電容量は1.8TW(テラワット)相当で、その多くが未開発となっている。

ニュースリリース:

<http://www.eve.es/web/Actualidad/Euskadi-dispone-ya-de-la-primera-planta-europea-qu.aspx?home=home%81@>

<http://www.voith.com/press/562184.htm>

【低排出車:スイス】ABB、オランダのEV 充電装置メーカーを買収

スイスの重電大手ABBは7月1日、電気自動車(EV)用充電スタンドの製造を手がけるオランダのエピオンを買収したと発表した。エピオンは直流電源を使う急速充電装置と管理ソフトウェアに特化したメーカーで、通常6~8時間かかるEV充電時間を15分に短縮できる充電スタンドを2010年5月に発売し、欧州全域に販売網を持つ。ABBはEV充電インフラ事業を拡大する計画を打ち出しており、今回の買収もこの一環。昨年は北米でEV関連技術と蓄電を手がけるECOtality社を買収し、同市場におけるEV充電事業に参入している。

ニュースリリース:

<http://www.abb.com/cawp/seitp202/8d090a3a4d58d6f4c12578c00026b56f.aspx>

【バイオ燃料:オランダ】KLMやルフトハンザ、バイオ燃料を旅客機に本格導入

KLMオランダ航空は6月22日、使用済みの調理油から作ったバイオ燃料とジェット燃料の混合燃料を9月から商業用旅客機に本格導入すると発表した。アムステルダムとパリを結ぶ路線で月間200便以上が対象となる。将来的には、低排出や生物多様性の保護などを含む持続可能性(サステナビリティ)基準を満たすことを条件に、別の原料の燃料利用も視野に入れている。KLMは2007年よりバイオ混合燃料の開発に乗り出し、2009年には初のテスト飛行を実施し、注目を集めた。また、同発表から1週間後の6月29日、乗客を乗せたフライトとしては世界初のバイオ混合燃料による運航をアムステルダム・パリ間で実施した。ドイツのルフトハンザも7月15日、バイオ燃料を使用した定期便のテスト運航を開始した。対象となるのはフランクフルト・ハンブルク間の国内線1日28便のうち8便。テスト期間は半年間が予定されており、この間に削減できる二酸化炭素(CO2)は1,500トンに上ると見られている。このほか、日本航空、英ヴァージン・アトランティック航空、英格安航空のトムソンフライ、フィンランドのフィンエアーなどもバイオ燃料の本格導入に向けた取り組みを開始している。

ニュースリリース:

http://www.klm.com/corporate/en/newsroom/press-releases/archive-2011/KLM_launches_commercial_flights_Amsterdam.html

http://www.klm.com/corporate/en/newsroom/press-releases/archive-2011/KLM_operates_first_scheduled_flight_on_biokerosene.html

<http://presse.lufthansa.com/en/news-releases/singleview/archive/2011/july/15/article/1980.html>

【CCS:ブルガリア】東芝、ブルガリアでCCS導入に向けた調査実施

東芝は7月5日、ブルガリアで火力発電所における二酸化炭素(CO2)回収・貯留(CCS)に関するフィージビリティ・スタディ(事業可能性の調査)を行うことを明らかにした。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のプロジェクト委託先に選定されたことを受けたもので、2012年3月までの調査期間に、マリツァ・イースト火力発電所で超臨界石炭火力発電設備やCCS設備の導入、分離回収したCO2の貯蔵方法などを調査する。大成建設や油田掘削サービスを手がけるシュルンベルジェ・カーボン・サービス社、ソフィア大学等も参加する。東芝は2006年からCCS技術を火力発電プラントへ適用するための基礎研究を本格化に開始、2009年から日本国内で実証試験を実施している。

ニュースリリース:

http://www.toshiba.co.jp/about/press/2011_07/pr_j0501.htm

【政策:EU】欧州委、欧州エネルギー効率化基金を創設

欧州委員会を含む4機関は7月1日、域内のエネルギー効率化プロジェクトへの融資に特化した欧州エネルギー効率化基金(EEEF)を創設した。基金規模は2億6,500万ユーロで、このうち欧州委員会が「回復のための欧州エネルギープログラム(EEPR)」から1億2,500万ユーロを振り向けるほか、欧州投資銀行(EIB)が7,500万ユーロ、イタリアの投資機関CDP(Cassa Depositi e Prestiti)が6,000万ユーロ、ドイツ銀行が500万ユーロを拠出する。ドイツ銀行は基金の管理も担当する。欧州連合(EU)の環境目標「20-20-20」(2020年までに、温室効果ガスの20%削減、最終エネルギー消費量に占める再生可能エネルギーの割合を20%以上に引き上げ、エネルギー効率の20%改善)の達成を助けるため、主に域内の公的機関によるエネルギー効率化や再生可能エネルギー導入を後押しする。将来的には、同基金の資本を約8億ユーロまで拡大したい考えだ。なお、欧州議会は今年初めにEEPRの未使用分を再生可能エネルギー分野に充てることで合意していた。

ニュースリリース:

<http://europa.eu/rapid/pressReleasesAction.do?reference=BEI/11/98&format=HTML>

◆◆「EBS産業レポート」発売中◆◆-----

◎1「欧州の先進環境100社——最新市場動向と注目企業の横顔」 113頁

主な内容

- 欧州の先進環境企業100社の戦略と最新動向
- 欧州環境市場規模の推移
- 太陽光発電市場の2009年実績と今後の成長見通し
- 風力発電市場の2009年実績と成長見通し
- 分野別の成長予測
- 洋上風力、太陽熱、波力・潮力発電の動向

◎2「欧州自動車産業の最新動向 2010-11年版——EUのエコカー戦略」 110頁

主な内容

- エコカーに対するEUの開発支援戦略
- EUと主要国の自動車関連環境政策—CO2排出規制の概要など
- 欧州のエコカー市場の現状と見通し
- 欧州の大手乗用車メーカーのエコカー戦略
- 主要乗用車メーカーの過去1年間の展開と今後の見通し
- メーカー別の欧州の乗用車・商用車販売統計
- ロシアの自動車販売動向
- 主要自動車メーカーの欧州・ロシアの生産施設立地

◎3「これだけは知っておきたいEUの環境規制 2010-11年版 108頁

主な内容

- EU2020年戦略における環境・気候変動政策のビジョン
- エコデザイン指令～新ErP(エネルギー関連製品)指令
- WEEE/RoHS指令および廃車指令の概要と改正の動向
- REACHの基本と実施状況
- 2020年とそれ以降に向けた温室効果ガス排出削減の目標と議論の動向
- 再生可能エネルギー促進指令
- 建物エネルギー性能指令
- 今後のEU排出権取引の制度詳細 ほか

価格：PDF版 395ポンド／485ユーロ／53,000円(全税別)
(ハードコピー+PDF版：480ポンド／590ユーロ／65,000円(全税別))

レポートの詳細に関しましてはこちら⇒ <http://www.ebsukltd.com/report/index.htm>

◇◆当ニュースメール配信サービス希望者募集中！◆◇-----

- 当配信サービスは無料です。どなたでもホームページからご登録いただけます。
 - 配信頻度は基本的に毎月ですが、都合により不定期になることをあらかじめご了承下さい。
 - 本サービスは弊社の都合により休止することがあります。
- ご登録はこちら⇒ <http://www.ebsukltd.com/newsletter/>

◇◆当サービスのご利用に当たって◆◇-----

- ★登録内容の変更や配信停止はお手数ですが下記からお願い致します。
<http://www.ebsukltd.com/newsletter/>
- ★ニュースメールに関するお問い合わせ、その他ご利用に際してのご不明点は下記へご連絡下さい。
news@ebsukltd.com

発信元◇EBS(UK)Ltd.
1 Heathcock Court, 415 Strand, London WC2R 0NT, UNITED KINGDOM
ウェブ: <http://www.ebsukltd.com/> メール: news@ebsukltd.com

Copyright(C) EBS(UK)Ltd. 2011 掲載記事の無断転載を禁じます。
